

かものうりんだより

2022年9月号

発行：静岡県賀茂農林事務所

所在地：〒415-0016 静岡県下田市中531番地の1

電話番号：0558-24-2075 FAX番号：0558-24-2163

ホームページ：https://www.pref.shizuoka.jp/sangyou/sa-710/



「賀茂」農業寺子屋を開催しました！

8月9日（火）に第1回「賀茂」農業寺子屋を開催しました。

「賀茂」農業寺子屋は若手農業者を対象に先進経営体等の講座を通じて、将来を意識した農業に取り組んでもらうことを目的としたセミナーです。

第1回目は浜松市の農業法人である京丸園株式会社の代表取締役、鈴木厚志氏に講演を依頼しました。

鈴木氏は自身の経歴を基に、個々の目標を持ってそれに取り組む重要性、持続性のある経営体にするための一つの考え方等を講演していただきました。

出席した若手農業者は、熱心に質問しており、自身が目指したい経営者像を考えるきっかけになったと思われる。

今後も若手農業者のスキルアップにつながる講座を開催する予定です。



担当：企画経営課（0558-24-2076）

令和4年度優良建設工事等表彰式

9月15日（木）、下田総合庁舎2階第8会議室にて、下田土木事務所と共同で、令和4年度優良建設工事等表彰式を開催しました。

当事務所では、人家が隣接し、資材搬入や施工方法に工夫を要する中、適切な現場管理と的確な施工管理により、トラブル無かつばらつきの少ない山腹工事を完成させた次の1件を表彰しました。

【優良工事部門】

受注者	工事名	工事箇所
株式会社繁美建材土木	令和3年度治山 (予防)高馬工事	下田市高馬

また、工事現場における労働災害の防止と工事の円滑な推進を目的に、安全施工管理研修会を合わせて実施しました。



担当：総務課（0558-24-2075）

令和4年度GAP研修会を開催しました

9月5日（月）、下田総合庁舎にて、GAP取組をすすめるため研修会を開催しました。

GAPとは、Good Agricultural Practice（良い農業のやり方）の略語であり、食品安全、環境保全、労働安全などの持続可能性を確保するための生産工程管理の取組です。GLOBALG.A.P、JGAP、ASIAGAPのほか、都道府県版GAPとして、しずおか農林水産物認証があります。GAP認証を取ることで、農作業事故の防止や、環境負荷低減、SDGsへ取り組むことにつながり、生産者が安心安全な農業を行っていることを証明できます。良い農場にするために改善を重ねながら努力をすること自体が「GAPに取り組む」ことにつながります。

当事務所では引き続き、GAPの普及を推進してまいります。



担当：地域振興課（0558-24-2079）

次回の狩猟免許試験は令和5年2月に実施を予定しています。皆さまの受験をお待ちしております。

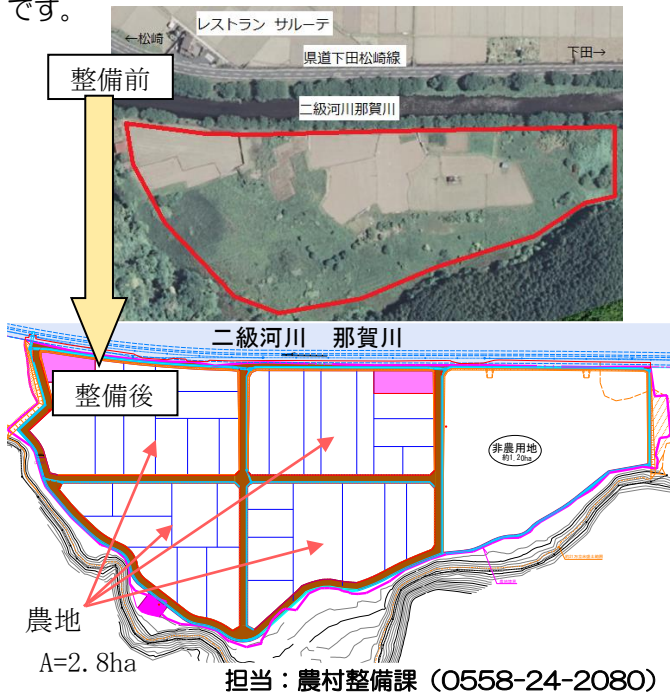


担当：森林整備課（0558-24-2082）

伊豆縦貫道建設発生土を活用した 農地整備を実施しています

当事務所では本年度、松崎町南郷において、伊豆縦貫道の建設発生土を活用した農地の拡大・整形や道水路整備を行う工事を実施しています。

この地区では、もともと水田だった土地の基盤を高くして、畑に転換する計画で、令和2～3年度に伊豆縦貫道工事の建設発生土受け入れを行いました。来年度からは新たな農地で柑橘や野菜などの耕作が開始される予定です。



担当：農村整備課（0558-24-2080）

台風8号災害について

8月13日（土）の台風8号による大雨の影響で、松崎町雲見地区では河川の氾濫や土砂崩れが発生しました。

特に竹カラシ地内では山腹斜面が崩壊し、下部の人家1棟が全壊するなど甚大な被害を与えました。今後の降雨によって被害の拡大が懸念されるため、復旧整備の早期着手に向けて、当事務所では復旧計画の作成や関係機関との協議などを行い、準備を速やかに進めています。



担当：治山課（0558-24-2084）

令和4年度狩猟免許試験を実施しました

8月28日（日）に令和4年度狩猟免許試験（第1回目）を実施しました。賀茂管内における今回の受験者数は銃猟（第一種及び第二種）4名、わな猟9名、網猟1名で、うち合格者数は銃猟3名、わな猟9名、網猟1名でした。

賀茂地域では依然としてシカの生息頭数が多く、狩猟免許所持者による有害鳥獣捕獲等に取り組んでいます。今回合格した皆さんにも、有害鳥獣捕獲に御参加いただければ幸いです。



東伊豆町と河津町では、静岡県内のカーネーション生産量の約9割を占めています。伊豆カーネーションはバリエーションに富んだ品種を栽培しているほか、品質に定評があり、美しさを長く保つ「日持ち認証」を取得しています。また、夏から秋にかけてハウスの被覆資材を外した「雨あて栽培」により、過剰な高温を避けながら十分な日差しを受けることで、高品質な切り花を生産しています。

カーネーションは、10月頃から出荷が始まります。